

第86回 ISO/TMB (技術管理評議会) 結果報告

経済産業省 国際標準課

基準認証専門官

猿橋 淳子

令和5年4月20日



作成課	国際標準課
性質/作成日付	機密性1、令和5年4月20日
保存期間	1年
備考	未定稿

今回のTMBに関して

皆様には、いつも標準化活動にご協力いただきありがとうございます。

- 今回のTMB会合は、マイアミにおいて対面で開催されました。（中国のTMBメンバーがオンラインで参加となりました。）
- だんだん対面の会議（ハイブリッドも含め）が増えてきており、新旧のネットワークの確立にもつながっているようです。
- SMB/TMB合同で作成した会議開催のガイダンス（欄外URL参照）をご活用いただき、引き続き安心・安全な状態での規格開発にご対応いただけるようお願い申し上げます。
- なお、時差の問題に関してはなくなることがありません。もし、何か困難な事象等が発生しましたら、ご連絡いただければ幸いです。

本資料は決議を要約していますので、正式なものは和訳版のついた英語版でご確認ください。

TMBの任務と議長・メンバー・事務局の紹介（1）

●任務

●ISO規格作成に関する管理事務的事項

✓TC/SC/PCの設置・廃止、議長任命、幹事国割当、ISO/IEC
専門業務指針の改訂等

●ISO規格作成に関する戦略的事項

✓規格開発の効率化・迅速化、TC/SC戦略ビジネスプランの審
議・承認、TC/SC活動の調整・モニタリング等

TMBの任務と議長・メンバー・事務局の紹介（2）

● メンバー（出席者）

- TMB議長: Mr Javier GARCIA（西）
- TMBメンバー(15名) : Mr. Steven Cornish (米), Ms. Amanda Richardson (英), Ms. Petra Scharf (独), Mr. Franck Lebeugle (仏), Ms. Atsuko Saruhashi (日), Ms. Karen Batt (豪), Mr. Marcel Knecht (スイス), Ms. Merete Holmen Murvold (ノルウェー), Mr. Jorge Cazajiera (伯), Mr. Bruce Farquhar (加), Mr. Chandan Bahl (印), Mr. Cristian Vazquez (亜), Mr. Hussalmizzar Hussain (馬), Mr. Young Jun Moon (韓)
＜対面＞, Ms. Yubing Li (中)＜オンライン＞
- ISO中央事務局 :
Mr. Marco Rossi (部門長), Mr. Antoine Morin TMB事務局長ほか
- オブザーバー : Mr. Vimal Mahendru (SMB議長), Mr. Gilles Thonet (SMB事務局長)

【決議 16/2023】 サプライチェーンとロジスティクス分野における一貫性に関する TMB タスクフォース

<決議要約>

TMB Task Force on the Coherence in the field of supply chain & logistics

- TFの任期延長（2023年6月のISO/TMBに推奨事項を提供）と任務の拡大を決定
- 拡大した任務：ギャップ分析
 - 既存のISO委員会が現在取り組んでいない標準化の重要な領域の特定
 - このギャップ分析に基づき、承認済のSACからの2件の提案とKATSからの潜在的な新しい提案を検討し、新委員会の設置を検討。
 - 既存のISO委員会及び分科委員会の検討を含む、これらの新しい標準化活動の構造化についてTMBに推奨事項を提供する。
- ギャップ分析後、ロジスティック分野の調整委員会（Coordination Committee: CC）設立を検討。

<背 景>

サプライチェーンとロジスティックに関連する新TC/PC提案が中国から連続して提出されたことから、関連するTCSC活動との重複やどのように整合性をとりながら規格開発を行うかを、TFを設置し議論。関連する委員会ともWSを行いながら情報収集し、報告書が完成。

<審議内容> 議題 5.1.1

- CCでギャップ分析するよりは、TFのままギャップ分析し、CCの設置を議論すべき。
- ロジスティクスはとても重要で早急な対応が必要。設立後に規格発行までの時間も問題だが、新TC提案から時間がかかりすぎるのも問題。

【決議 17/2023】 スマートファーマーミングに関する戦略諮問グループ（SAG）の報告書

＜決議要約＞

Report of the Strategic Advisory Group (SAG) on Smart Farming

- スマートファーマーミング（SF）に関するSAGの最終報告書を受け入れ公開予定。
- スマートファーマーミング調整委員会（SF Coordination Committee）の設置を承認。
- ISO/DEVCO（発展途上国にとって本分野の重要性を考慮し）に、SFCCと協働を促進。
- IECとITU-Tに対し、これに関しISOと協働に関心があるか確認。合同グループの設置の可能性の検討を依頼。

＜背 景＞

SAG SFは2021年11月～2023年1月にかけて、コアグループ（コアG）を計15回、サブグループ（サブG）を延べ150回近く開催し、約150人の専門家が参加し報告書を作成。コアGには農水省、各サブGには日本からは計10名超の専門家が参加。

＜審議内容＞ 議題 5.2.1 当日はコンビーナ 2 名が発表。

- 質疑応答や議論も前向き（英語はシンプルにと希望あり。）
- 環境・気候変動のみならず、食糧問題も喫緊の課題。理事会への報告・理事会の関与が必須。
- 本SAGからの学びと標準化ロードマップ活動を推すべき。用語集など、SAG報告書のモデルとして好評。
- 新TCの設置は、今後提案されてからの議論。

【決議 17/2023】 スマートファーマーミングに関する戦略諮問グループ (SAG) の報告書

＜SFCC任務＞ Report of the Strategic Advisory Group (SAG) on Smart Farming

－ 任務

- ・ スマートファーマーミングとデータ駆動型農業食品システムに関連するISO/TCSC間のコミュニケーション, 調整, 及び情報共有を促進する。
- ・ 新規又は既存のプロジェクトに関して、ISO/TCSC間で調整事例を特定し、一貫性の確実に。
- ・ SF関連規格類の新TCSCや新プロジェクトなど、新しい分野の提案の導入を監督する。
- ・ ISOコミュニケーション部門と協働してコミュニケーション計画の開発と実施に取り組む。
- ・ SFに関連する外部組織とのパートナーシップについて、ISO 中央事務局に助言する。

－ メンバー：（事務局：ISO中央事務局職員）

- ・ SFに関連するISO/TCSCの議長及び委員会マネジャー（又は任命された委員会の代表者）
- ・ コンビーナ：SFCCメンバーから指定され、定期的にローテーションすることを許容する。

－ 存続期間： 実行中

－ 報告： CCに対し、TMB会議ごとに状況の最新情報を提供しよう要請

【決議 18/2023】 気候変動調整委員会（CCCC）の任務の更新

Updated mandate for the Climate Change Coordinating Committee (CCCC)

＜決議要約＞

- CCCCを恒久的な機関に転換するというTMB行動計画の要請を踏まえ、改訂版任務を承認。CCCCの任務等は次スライド。
- CCCC全体の目的：ISO/TMB, ISO/CS, TCSC等を支援し、気候変動関連事項をISOの規格類及び規格の開発プロセスに効果的に統合する。＜再掲＞
- Mr. Nick Blyth（英）をコンビーナに任命し、事務局をSCCに割り当てる。
- 報告：TMB会議ごとに状況の最新情報を提供するように要請する

＜背景＞

TMB決議73/2020によりCCCCが設立。当初は、2年間の活動となっていたが、2022年9月のTMB会合で今後のことが議論され、任務をロンドン宣言の実施と関連した進捗に照らして更新し、活動を延長することが決定。

＜審議内容＞ 議題 5.4.1

- 現在TMBで議論されている専門家プール(Pool of advisor)との違いが不明瞭。全体的に明瞭に！
- TMBやTC/SCが決定したを覆すようなアドバイスにならないか。
- Guide 84の改正に関して、Net zeroだけにならないように留意すべき。

【決議 18/2023】 気候変動調整委員会（CCCC）の任務の更新

＜CCCC任務＞

Updated mandate for the Climate Change Coordinating Committee (CCCC)

- 目的：ISO/TMB, ISO/CS, TCSC等を支援し、気候変動関連事項をISOの規格類及び規格の開発プロセスに効果的に統合する。＜再掲＞
- － 任務
 - － （ロンドン宣言に関連する）TMB行動計画の実施においてTMBとISO/CSを支援。
 - － 関連するISO/TCSC間の調整
 - － 気候変動対策を支援するための規格の開発に関するTMBへの推奨事項の提供
 - － 気候変動に関連する標ISO/TCSC間のコミュニケーション，調整，及び情報共有の促進
 - － 関連するISO/TCSC等と連携して，規格の改訂による影響を洞察したケーススタディ又はデータを収集
 - － ISOガイド84（規格で気候変動に対処するためのガイドライン）の実施
 - － ガイド84利用促進と実行支援，ガイドの理解を高めるための活動におけるISO/CSの支援
 - － 気候変動の重要事項を導入するためのガイド84の改訂の時間軸とプロセスを決定
 - － 他の組織と協働するISOの取り組みをサポートする
 - － （ISO戦略的パートナーシップの取り組みの一環として）ロンドン宣言実施に向け、ISO/CSと協働し，関連組織への働きかけと対応を促進。
 - － 規格開発プロセスへの気候関連組織の参加の促進と支援
- － メンバー資格：議長は必要に応じて気候変動関連の専門知識を有する専門家をTC/SCから招待も可。
 - － 気候変動に関する問題を扱うTCSC議長。但し、議題や必要に応じ、追加のTC/SC議長を招待可。
 - － IEC及びITUの代表者

【決議 19/2023】 ESG調整委員会（ESG CC）のリーダーシップ

Leadership of the ESG Coordinating Committee (ESG CC)

＜決議要約＞

- TMB決議78/2022で要請されたESG CCリーダーの指名に留意し、
- Dr. Jorge E.R. Cajazeira (ABNT), Prof. David Jackman (BSI)及び Mrs. Patricia L. McCarney (SCC) をESG CC の共同議長に任命し、
- ESG CC の事務局を ABNT, BSI及びISO/CS に割り当てる。

＜背景＞

2022年8月にSAG（ESG）はTMBに最終報告書を提出し、同年9月のTMB会合でESG CCの設立が決定。なお、任務はTMB 決議78/2022にて規定。

任務を決定した際、リーダーをどうするか、共同（Co-）でいいのか、などの議論があり、今回はそのリーダーの決定。

＜審議内容＞ 議題 5.4.2

- Conflicts of interestの点で、TMBメンバーがCCの議長でもよいのかという点は、議長であることから、そこまでの問題はなく、TMB/TFのコンビーナレベルは過去にも例があるので、問題はない。
- ESGに関しては、理事会から早くマッピングを完成させよ、とのコメントがあり、緊急性が問われていることが認識された。

ワンポイントメモ：組織名

一般的に以下のように分類。

- **TF**(Task Force): TMB自らがメンバー。短期間で活動。
- **CC**(Coordination Committee) : TC/SC議長がメンバー。
TC/SC間のコーディネーションが業務。一定期間活動。
- **SAG**(Strategic Advisory Group): TMBメンバー、MB、
専門家などが役割に応じて参加。限定された期間活動。

どのグループもTMBに報告する。

【決議 20/2023】 ISO/TC 210 の名称及び業務範囲の変更

Modification of the title and scope of ISO/TC 210

＜決議要約＞

- 名称：医療機器を含む健康目的の製品の品質管理と対応する一般的側面
- 業務範囲：液体及び気体用のコネクタを含む，健康目的の製品の品質管理及び対応する一般的側面の分野における要求事項及びガイダンスの標準化
- 除外事項：
 - － ISO/TC 176で扱われる一般的な品質管理規格
 - － 医薬品及びヘルスケアサービスの品質管理規格

＜背景＞

本TCの業務範囲が「医療機器」に限定されていたが、ソフトウェア自体が医療機器として取り扱われるようになり、当該TCで開発する規格の範囲を拡大することを目的に業務範囲の拡大が提案。しかしながら、対象が不明瞭という意見があり、議論。なお、国内においては、医療機器とは法的に扱われないが、当該TCで開発している規格の利用が可能であるものも多い。

＜審議内容＞ 議題 6.2.1

- 本TCは機器や製品が対象ではなく、それらを製造している組織が対象であるが、スコープが不明瞭。
- 本TC内でコンセンサスされたならば本議論は平行線。説明を受けるとのこと、必要であれば更にNOTEに足すことで対応するよう指示する旨、議事録に残す。

【決議 21/2023】 新しいプロジェクト委員会の設置 - 国連持続可能な開発目標のマネジメントシステム

＜決議要約＞ Establishment of a new PC - Management System for UN Sustainable Development Goals

- TMBメンバーから提起されたコメントと懸念、提案者からのフィードバック等に留意
- 新しい ISO/PCの設置を承認、幹事国をDS（デンマーク規格）に割り当てる。
- MB投票中のコメントをレビューするために、予備段階（0）を使用することを認める。
- 名称及び業務範囲を、2023年9月のTMB会議にしよう求める。

＜背景＞

デンマーク(DS)より提案の国連SDGsを達成するためのマネジメントシステム規格を開発するためのPC設置提案。

＜審議内容＞ 議題 6.2.2

- 規格内容が不明瞭。スコープを明確に定義してほしい。PC名を短くわかりやすくしてほしい。
- ステージ0での開始と同時にPCを設置することは、投票で承認されたスコープから大きく変更するため、3ヶ月～半年ほどの期限を設けたAdHocグループやPCの設置を仮とし対応すべき。
- 既存MSS(ISO14001等)をSDGsの達成に向けてどう活用するかガイドライン作成はどうか。
- TYPE Bだとしても、本規格に適合するのは途上国としては難しい。→提案はTYPE Aだが、PCが決定。
- ISO 26000(社会的責任)はMSSにしないとTMBで結論づけた。一方、これはMSSにすると決めるのか。
→ 状況が違う。もちろん、PCでの議論次第ではある。

【決議 22/2023】 ISO/TC 96 からの ISO 4301-1:1986 の復活と保持の要請

＜決議要約＞

Request from ISO/TC 96 to reinstate and retain ISO 4301-1:1986

- ISO 4301-1:1986 (クレーン及び関連装置 Part 1 一般) を当該規格を参照する ISO/TC 96担当の規格が更新されるまで復活させ維持する。
- ISO 4301-1:1986 の復活は4年間, 又は ISO 4301-1:1986 を参照するすべての規格が更新されるまでのいずれか早い方の期間に制限し,
- ISO 4301-1:1986 のまえがきに移行期間を記載することとする。

＜背景＞

当該規格は、1986年版も2016年版もクレーンに係る基本規格であり、多くのクレーン関連規格に影響が及ぶことから、併存が期待された。そのため、TC 96(クレーン)全体として、2022年11月総会で両規格の併存の取扱いがを検討するためのアドホックグループが設置されたところ。

＜審議内容＞ 議題 6.2.3

- 必要性はわかるが、期限なく残すことに反対。
- 期限の記載は、決議24/2014で決められており、また別件で承認した際でも期限は記載あり。
- コーディネーションは始まっているが、完成するかどうか不明。4年が十分かは不明だが記載は必要。

【決議 23/2023】 持続可能なスポーツ ゲームを評価するための ガイダンスに関する SAC提案の割り当て

＜決議要約＞

Allocation of the SAC proposal on Guidance for evaluating sustainable sports games

- ISO/TC 83 (スポーツその他のレジャー施設及び用品)における「スポーツ施設, スポーツゲーム及びリーグの持続可能性の評価」に関する規格のPWI 20655の提案に留意し,
- ISO/PC 250 (活動イベント管理における持続可能性)で行われるISO 20121「イベントの持続可能性に関するマネジメントシステム－要求事項と利用手引」の改訂と重複する可能性に留意し,
- ISO/TC 83 にPWI をこれ以上進めないように指示し,
- ISO/TC 83と中国(SAC)に, ISO/PC 250 に関与するよう促し, 必要な内容をISO 20121 の改訂へのインプット、また補完的な規格類の提案として共有を促進

＜背景＞

北京オリンピックの経験に基づいた中国の提案と、英国が主導したオリンピックでも実際利用されている規格の改正に重複が見られ、どのように開発するかが2022年9月TMB会合で議論が開始。

独・中がスポーツとして対応する中、英仏がイベント全体のMSSとしているところ。

【決議 23/2023】 持続可能なスポーツ ゲームを評価するための ガイダンスに関する SAC提案の割り当て

Allocation of the SAC proposal on Guidance for evaluating sustainable sports games

<審議内容> 議題 6.3.1

- ・ TC 83への提案はセクター担当が開発するという意味で適切。
- ・ **TC 83はMSSではなく**、他のイベントとの比較の指標の規格。重複なし。補完する規格。
- ・ 規格の一貫性（Coherence of documents）を議論してきた。ISO 20121という大きな影響のある規格が発行して、オリンピックにも、イベント産業にも使われている。
- ・ 今回の提案もISO 20121の中で開発をすべきというIOCからのレターがあることから、イベント産業が参加していないTCで作る規格ではない。相反する情報が反乱するのは問題ある。
- ・ IOCレターがTMBメンバーに共有されたのは、片方の意見を支持するようなものであり驚き。
→議長指示により、秘匿するものでもないと判断し共有された。
- ・ 一貫性が必要であり、ユーザーが必要としているところで開発すべき。PC 250で開発すべきだが、今回の提案者との強い連携が必要。
- ・ 市場に混乱を与えるのはよくない。市場のニーズに合わせることを第一に考えるべき。

【決議 24/2023】 ISO DMT 推奨事項 01/2022 – 附属書 C

ISO DMT RECOMMENDATION 01/2022 – ANNEX C

- 長文につき、件名のみ
 - C.4.13 目的及び妥当性
 - 1.3.2 合同専門委員会（JTC）及び合同プロジェクト委員会（JPC）
 - 1.15 TFC委員会間のリエゾン

＜背 景＞

2022年12月のJDMT会合等で審議された、Directives Part 1に関して、特に附属書C（規格制定のための提案の妥当性）の修正内容（持続可能性、気候変動等への取り組みに関する記述の追加）に関して、TMB投票において、決議延期が決定。

ほか二点は、用語の明確化や編集上の修正。

＜審議内容＞

- 規格の提案の際に、「気候変動等へ取り組むこと」を更に強固に実行するため、附属書の記載をロンドン宣言に基づき、強化すべき。
- 気候変動のみ強化することへの懸念、ほかの重要な事項とのバランスはどうか。
- IEC側が了解していないため、またSupplementを増やすことになり、共通化から離れる懸念。

【決議 25/2023】 メタバーズに関する ISO/IEC 合同標準化評価グループ (JSEG) の設置

＜決議要約＞ Establishment of an ISO/IEC Joint Standardization Evaluation Group (JSEG) on Metaverse

- メタバーズ及び関連技術の分野における標準化の必要性和機会を調査するためのSEGの設置を承認した SMB 決定 175/11に留意し,
- ISO/IEC Directives Part 1にSEGを追加することを、TMB/SMBが承認し,
- IEC/SMB と ISO/TMB とが「メタバーズ」に関する JSEG設置することをSPCGが勧告
- ISO/IEC JSEG メタバーズの設立を承認。(任務は次のスライド)

＜背景＞

IECに提案されたSEGメタバーズの提案であるが、提案時よりSPCGからISOやITU-Tとの協調が勧告されていたが、「SEG」がISOにないことから議論が進まず。まずは技術的な議論はSEG 15で進めつつ、SEGがISOでも設置できるようDirectivesの改正を行い、JSEGにすることが提案された。

＜審議内容＞ 議題 12

- SPCGで、IEC/ISOのJSEGメタバーズを設置せよ、と勧告したのに、IEC/SMBの先週の会議でもコンビーナが紹介されるだけだった。ISOでSEGが設置できるようにJDMTを改正したので対応すべき。
- 合同コンビーナは、SMBからなのか？ → CNとUSは、専門家であり、どちらのボードという区別はない。

【決議 25/2023】 メタバーズに関する ISO/IEC 合同標準化評価グループ (JSEG) の設置

Establishment of an ISO/IEC Joint Standardization Evaluation Group (JSEG) on Metaverse

任務は以下のとおり。

- メタバーズに関する共通の理解と定義を作成する
- 現在の研究，技術，標準化活動，及び傾向を考慮して，メタバーズの領域における標準化の必要性を調査する
- メタバーズの領域における標準化活動の最初のロードマップを推奨する
- IEC/ISO(必要に応じてパートナー組織を含む)における業務の適切な組織を推奨する
- JTC 1 を含む ISO/IEC TC/SC/SyCs や，コンソーシアムなどの他の関連組織と早い段階で関与する
- 必要に応じて，SMB/TMB にさらに推奨事項を作成する

SMBによって任命されたCN及びUSからの共同議長に、合意する。

【決議 26/2023】 IWA 42 ネットゼロガイドライン

IWA 42 Net Zero Guidelines

＜決議要約＞

- IWA42 Net Zero Guidelineが当該分野でISOが際立つ貴重な機会を提供し、ネットゼロに取り組む国際規格を開発することを約束し、
- 2023年3月の時点で IWA42 の発行後のメンテナンスはTMB決議95/2022で ISO/TC 207/SC 7(環境管理/GHGマネジメント及び関連活動) に割り当てており、
- ISO/TC 207/SC 7に対し、
 - － この分野における ISO のプレゼンスを追求し、強化するために、将来の規格類の開発において IWA42を使用することを奨励し、
 - － 将来の規格類のレビュー又は開発に先立って、市場による IWA42 の採用と使用を調査するよう求め、
- IWA42幹事国に対し、IWA42 の開発への参加者及び組織の所属するNSBを支援。

＜背景＞

IWA42は、昨年COP27に発行を間に合わせるため、短期間での開発を行ったことにより、専門家から異議申し立てが提出されていた。TMBではこの異議申し立ての懸念は理解するものの、ルールに則った開発であることから発行を許可。一方、今回のIWA42での教訓（IWAが誤認されないためのコミュニケーションプランなどの準備）をまとめ、2023年3月TMB会合中にワークショップを開催し、議論。

＜審議内容＞ 関連会合より（内容及び議事メモは対外秘。）

短期間でのIWA42発行によるメリット・デメリットを確認。今後の活動に生かす議論実施。

報告・討議事項 (決議なし)

5.2.2 SAG 重要鉱物 Critical Minerals

● 情報提供から討議へ

<背 景>

- 重要鉱物関連のTC（TC298レアアース、TC333リチウム等）が、乱立しているように見える現状に対する懸念を背景に、豪州提案により2021年6月に SAG Critical Minerals（重要鉱物SAG）が設立（TMB決議26/2021）。持続可能性やESG等の欧米が関心を寄せる観点からの標準化に議論が集まりつつあり、分析を主眼においた新TC提案も視野に。

<審議内容>

- SAGの方向性と違わない新TC提案が報告書完成前に提案された場合の対処について提起。
- スピード重視し、MB投票を開始するのか、報告完成を待つのか。更に近いPC、IWA提案もある。
- SAGで戦略的な道筋をつけようとしているときに提案がくるとするのは、悩ましい。（強力なステークホルダーが提案者にいる場合、提案を止めることがNSBにできない場合もある）
- JTC1で量子技術が提案されているので、新TCの提案は待つようにというもあり。
- タイミングとCoherenceが問題のように見える。
- 市場のニーズが重要。SAGの意見を聞くべき。SAG報告書を待つべき。MBが混乱するのは避けたい。
- スピード重視だとすれば、提案があったことの情報公開すべき。SAG議論の途中で提案しないことを勧告したが、もう一度議論すべきかもしれない。

TMBマイアミ会合中の関連会合

- TMB Working proceduresの見直しワークショップ
 - IWA 42の教訓ワークショップ （→ 決議 26/2023）
 - 米州所属の議長とのワークショップ
 - ロンドン宣言実施のためのTMBワークショップ
-
- TMB Working proceduresの見直しワークショップ
 - ・ 見直しを含め、TMBの活動について議論。
 - ・ TCSC活動の支援など運用（Operation）も含め、戦略的な活動も行うことが重要。
 - ・ 現状のWorking proceduresへの対応に関して自己分析が必要（TMBの役割）。
 - ・ 広報活動を行う。
 - 米州所属の議長とのワークショップ
 - ・ ロンドン宣言（周知など）
 - ・ デジタルトランスフォーメーション（SMART規格など）
 - ロンドン宣言実施のためのTMBワークショップ
 - ・ TMBが実施するPool of advisor
 - ・ TCSCが環境に影響のある規格を改正するための支援を議論

11.1 次回以降TMB会合の日程、場所、議題

- 次回以降の会議等について

次回 第87回TMB会合@ジュネーブ

6月7～8日 TMB会合

6月6日 WS

(なお、今回はSMBとの合同会議はオンラインで実施予定)

次々回 第88回TMB会合@シドニー+ブリスベン (ISO総会中)

9月13～15日 シドニー 関連会合、地域所属 議長等とのWS

9月19日 ブリスベン TMB会合

通信投票の決議

2022年第85回TMB会議以降～2023年第86回TMB会議まで

● TMB決議 85/2022～ TMB決議 15/2023

- 85/2022: スマートマニュファクチャリング調整委員会 (SMCC) の任務の延長
- 86/2022: CASCO業務計画2023の追認
- 87/2022: リスクの概念及び関連用語に関するISO/IEC合同タスクフォースの任務の延長
- 88/2022: TC議長の任命 (2022年8月)
- 89/2022: ISO/TC 94/SC 4 落下を防止するための個人用保護器具の解散
- 90/2022: ISO/IEC専門業務用指針第1部へのJTC1補足指針2022年版の承認
- 91/2022: IEC-ISO-ITU合同スマートシティタスクフォース (J-SCTF) の任務の延長
- 92/2022: ISO/IEC JTC 1/SC 27のカテゴリーAリエゾンへの異議
- 93/2022: 標準必須特許 (SEP) の可能性をユーザーに警告することに関して, ITU-T/ITU-R/ISO/IEC共通特許ポリシー実施ガイドラインの改訂に関する特許ポリシーグループ (PPG) の推奨事項の承認
- 94/2022: TC議長の任命 (2022年9月)
- 95/2022: IWA42-ネットゼロガイドラインの発行に対する異議申し立て
- 96/2022: IACRCのための箇条1.17.4.1 Aリエゾン資格の適任性の例外
- 97/2022: ISO 23527のための登録機関 (RA) の任命
- 98/2022: TC議長の任命 (2022年10月)
- 99/2022: ISO/IEC 7816-6のための登録機関 (RA) の任命
- 100/2022: ISO/TC 106/SC 3 用語の再割り当て
- 101/2022: ISO特許ポリシーグループ (PPG) への新規指名の承認

2022年第85回TMB会議以降～2023年第86回TMB会議まで

● TMB決議 85/2022～ TMB決議 15/2023

- 1/2023: MSSに関する合同専門調整グループ (JTCCG) の改訂された委任事項の承認
- 2/2023: TC議長の任命 (2022年11月)
- 3/2023: マネジメントシステム規格に関するタスクフォース (ISO/TMB/TF 2) の改訂された投票プロセスの承認
- 4/2023: 廃止投票への異議 (2022年 第3四半期)
- 5/2023: TC議長の任命 (2022年12月)
- 6/2023: 廃止投票への異議 (2022年 第4四半期)
- 7/2023: ISO/TC 161 ガス及び／又は油用制御器及び防護装置の名称及び業務範囲の変更
- 8/2023: 経営コンサルティング (ISO/TC 342) に関する専門委員会の設置
- 9/2023: 国産ガラスの種類-クリスタルガラス, クリスタル, 及び鉛クリスタルガラス-仕様と試験方法に関するIWA
- 10/2023: ISO/IEC JTC 1 情報技術の戦略ビジネスプラン (SBPs) の承認
- 11/2023: ISO/IEC専門業務用指針 第1部の変更に関する2022年JDMT推奨事項の採択
- 12/2023: ISO/IEC専門業務用指針 第1部統合版ISO補足指針の変更に関する2022年DMT推奨事項の採択
- 13/2023: JTF水平規格類からの推奨事項を伴う最終報告
- 14/2023: ISO/TC 211 地理情報の業務範囲の変更
- 15/2023: TC議長の任命 (2023年1月)

参考 (ご紹介)

SPCG (Standardization Programme Coordination Group) について

- 2022年12月に第17回SPCGハイブリッド会合をウィーンで開催。
- 2023年1月下旬にWSをオンラインで開催予定・・・リスケし目的を再調整し開催予定。

ISO/IEC/ITUにおいて、内容が重複しているTC (SG) 設置の回避や、3 機関が重複した規格開発の結果、機関毎にほぼ同じ内容の文書が発行されることを防ぐことなどを目的に、2019年夏に設置。（日本からは、当初よりTMB委員が参加。）

- ①新TC/SGの提案が機関から回覧された際の対応
- ②既存のTC/SG間で重複やその他問題が発生した際の対応
- ③SPCGの責任外の問題（著作権、有償無償問題など）は適宜関連部署へ
- ④SPCGは決定機関（Boards: ISO/TMB, IEC/SMB, ITU/TSAG）に報告
- ⑤SPCGメンバーは、文書へのアクセス権を持ち、規格開発のためにそれぞれの機関の適切な関係者に文書を送付（著作権等の遵守は必須）
- ⑥ 3 組織で実行中の同じような案件のTC/SC/SGのリストの作成（Landscape文書）

どのように広報中？

右のイメージに到達したら、下にスクロール！



SPCG objectives

Coordination of new fields of technical activity:

- Review all new proposals for new fields of technical activity under consideration in, IEC, ISO and ITU's Telecommunication Standardization Sector (ITU-T)
- Identify early areas of common interest (and future challenges) in new standardization activities proposed in the three organizations
- Provide recommendations and mechanisms for coordination, collaboration and joint work to the respective technical boards (SMB, TMB, TSAG);

Official documents and operational information

SPCG Membership

[Download](#) ↓

SPCG terms of reference

[Download](#) ↓

SPCG Coordination IEC/ISO/ITU-T (Landscape of fields)

[Download](#) ↓

SPCG Key performance indicators

[Download](#) ↓

SPCG Effective Coordination Paper

[Download](#) ↓

SPCG AI/ML landscape

[Download](#) ↓

ランドスケープ文書！

Landscape of ISO/IEC/ITU-T existing Fields

Status: 6 December 2021

Field	ISO TCs ¹	IEC TCs ²	JTC 1/SCs ³	ITU-T SGs ⁴ , FGs	Dedicated and other related Coordination
	• TMB	• SMB	• SMB & TMB	• TSAG	• IEC SMB/ISO TMB/ITU-T TSAG Standardization Programme Coordination Group (SPCG) • World Standards Cooperation (WSC) • Global Standards Collaboration (GSC)
Access Networks, Transport Networks, Optical Networks	• ISO/TC 204 Intelligent transport systems	• IEC/TC 86 • IEC/TC 100 • IEC/SyC Communication Technologies & Architectures	• JTC 1/SC 6	• ITU-T SG15 • ITU-T SG9	• ITU/WMO/UNESCO IOC Joint Task Force to investigate the use of submarine telecommunications cables for ocean and climate monitoring and disaster warning
Accessibility, Human Factors, User Interfaces	• ISO/TC 37 • ISO/TC 159 • ISO/TC 173 • ISO/TC 314		• JTC 1/SC 35	• ITU-T SG2 • ITU-T SG9 • ITU-T SG16 • ITU-T SG20	• Joint Coordination Activity on Accessibility and Human factors (JCA-AHF)
Active Assisted Living	• ISO/TC 314	• IEC/SyC Active Assisted Living • IEC/TC 64 • IEC/TC 61		• ITU-T SG16	
Agriculture, smart farming	• ISO/TMBG/SAG on Smart Farming • ISO/TC 23	• IEC/SMB SEG on Biodigital Convergence	• JTC 1/SC 41 • JTC 1/SC 42	• ITU-T SG5 • ITU-T SG13 • ITU-T SG16 • ITU-T SG20	

表彰制度の活用

- ローレンス D アイカー賞
- 次世代賞
- ISO優秀賞
- 産業標準化事業表彰

参考

<https://www.iso.org/iso-awards.html>

IECには、ケルビン賞、エジソン賞、1906賞がある。

- ローレンス D アイカー賞：優秀なTCやSCの活動に対して、年に1つの委員会に対して授与される賞。自薦他薦問わず、4月末頃までに申請。受賞委員会は、総会で表彰される。
- 次世代賞：18～35歳までの標準化機関の職員に対して、持続可能性などを踏まえた標準化の経験に基づいて申請。毎年一人が受賞し、6ヶ月のISO中央事務局への出向の機会が与えられる。（4月末まで募集中）
- ISO優秀賞：前年に出版された規格に携わった専門家個人に与えられる賞。委員会の国際幹事国を通じて、TPM（ISO中央事務局）に提出する。人数などの制限無し。
- 産業標準化事業表彰（募集中）

<https://www.meti.go.jp/policy/economy/hyojun-kijun/keihatsu/hyosho/R05hyosho.html>

ウクライナ・ロシアについて（前回から変更なし）

＜事務局長からの連絡＞

- ロシア主導で行われる全会議は通知があるまで延期。ただし、投票用文書の発行、ISO/CSへの原案提出、CIBに関する決議など、その他の委員会活動はすべて許可。

＜ロシア主導が以下の場合＞

- CM（委員会マネジャー）
 - ・ 更なる通知まで全会議を延期。重要な決定はCIBで代替。
 - ・ ロシアの主導ではないWG、AGは通常通り会議を開催し、活動が可能。
- 議長
 1. CMもロシア：更なる通知まで全会議を延期。重要な決定はCIBで代替。
 2. CMはロシア以外：参加者は会議のセッション議長を選出可
 3. オプション2.が不可能な場合：ISO TPMによる会議の進行を検討。
- コンビーナ
 1. 会議は延期。但し、他のすべての活動は許可。
 2. プロジェクト期限厳守のために会議開催が不可欠と判断された場合：
 - 親委員会（TC/SC）議長（ロシア以外）が対応 または、
 - WGの専門家が、会議のセッションコンビーナを指名可能。
 3. オプション2.が不可能な場合、ISO TPMによる会議の進行を検討。

ありがとうございました

経済産業省～「標準化・認証」の紹介ページ

<https://www.meti.go.jp/policy/economy/hyojun-kijun/index.html>

日本産業標準調査会ホームページ

<https://www.jisc.go.jp/>